

4月に入って、スギ花粉が猛威をふるっている。青森県内にスギ花粉情報を発表しているのは「青森県花粉情報研究会」であるが、青森県庁の組織ではない。有志によるボランティアグループである。仙台への単身赴任から1992（平成4）年に7年ぶりで青森へ帰った私が、最初に手がけた組織なので記憶に新しい。

当時は全国で青森県だけがスギ花粉情報の発表がなく、昭和の時代から花粉症に悩まされてきた私としては、青森県内のスギ花粉症の人に花粉の飛散予測情報を届けたいと思っていた。

取りあえず県庁へ相談に行ったら、「花粉情報って何ですか？」。私の職場の上司には「商売にならないからやめとけ」と取り合ってもらえなかった。いろいろ調べているうちに弘前大学耳鼻咽喉科の池野敬一先生にめぐり会い、少しずつ仲間を募って3年かけてようやく立ち上がったのがこの研究会である。全国で最も遅いスタートながら、他県で主流だった医学博士と気象予報士の集団に、樹木医も参加しての研究会となり、最

予防徹底し乗り切ろう

今月のお題 スギ花粉猛威

①

強のグループとなってスタートできた。

スギは子孫を増やすために、雄花が花粉を飛ばす。そのスギの数は青森県が全国で4番目に多いことはあまり知られていない。

花粉症は体内に入った花粉によって引き起こされるアレルギー症であるから、予防法としては花粉を体内に入れないことである。

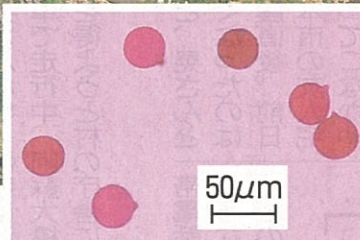
一般的な花粉症予防対策としては、①マスク、メガネを着用（特にマスク内側に当てガーゼを付けると効果が高い）②洗濯物は屋内に干す③衣類の素材は羊毛や毛織物は避けポリエステルや綿製品で起毛のないものを着用 などが考えられる。



△工藤 淳（くどう・じゅん） 1949（昭和24）年つがる市（旧車力村）生まれ。五所川原工業高校卒。自動車メーカー勤務などを経て、71（同46）年から日本気象協会に27年間勤務。青森市に県内民間気象予報会社の草分けであるアップルウェザーを設立し、気象や防災などの分野で長年活躍している。県花粉情報研究会、県気象予報士会、県防災士会の設立の発起人



花粉症の原因にもなっているスギ＝青森市台子沢付近



スギ花粉の顕微鏡写真。写真中のμmはマイクロメートルで、1mmの千分の一（松原篤・弘前大教授提供）

また、スギ花粉がよく飛ぶ日は①気温が高い晴れまたはくもりの日②雨上がりの翌日③湿度がよく晴れて風の強い日④湿度が低く乾燥した日とされる。沿岸部では海風の吹く日は比較的安全な日となる。日本において花粉症を有する人の数は、正確なところは分かっていない。弘前大学耳鼻咽喉科教授で県花粉情報研究会長の松原篤先生によると、2014年の調査では、20～60歳に限定すると人口の3分の1、33%がスギ花粉症に罹患しているという。また、高齢になるにつれてどんどん減っていく、70歳代では10%以下になるそうだ。花粉症はある日突然発症するのが特徴。花粉症の方は、予備知識によって予防を徹底し、つらいこの時期を乗り切りたいものである。県内主要5市のスギ花粉飛散実測値は、アップルウェザーのホームページ（www.appleweather.jp/）でも閲覧できるので参考にされたい。

気象予報士・じゅんさんと工藤淳さん（青森市、アップルウェザー社長）が、春夏秋冬、季節に合った気象の話や、ためになる防災の話をつづります。
※第3週に掲載します。

